

2 政策手段に係る重点分野

■環境教育・環境学習の推進

～市民のライフスタイルの改革に向けた取組の推進～

重点 目標

環境教育・環境学習の場や機会の充実、人材育成等の基盤整備を目指す。

施策の概要

地域の環境問題や地球環境問題を解決していくためには、市民一人ひとりが環境に配慮したライフスタイルを実践し、また、事業者も資源・エネルギーを大量に消費する生産や流通のあり方を見直し、環境にやさしい事業活動を行うことにより、社会全体を持続可能な循環型のものに転換していくことが必要です。その基礎をなすものとして、環境教育・環境学習は、ますますその重要性が認識されています。

市では、1995年に、環境教育・環境学習を計画的かつ効果的に推進していくためのガイドラインとなる「川崎市環境教育・学習基本方針」（2005年度改訂）を策定しました。この基本方針に基づき、毎年、環境教育・学習に関する事業実施計画を策定し、庁内関係機関が実施する事業の連携を図っています。

市が実施している主な事業としては、環境副読本等の教材の作成・配布、社会教育施設等におけるセミナーや学習会等の開催のほか、事業概要や環境情報等の発行により、環境教育に資する情報の提供を行っています。

また、人材育成として地域環境リーダー育成講座、緑のボランティア育成講座等を実施しており、講座の修了者は、地域における環境保全活動のリーダーとして活躍するなど、主体的に環境保全活動に取り組んでいます。

重点的取組事項の実施状況

●環境教育・環境学習事業の内容の充実

・体験型環境学習の推進及び副読本等の教材・プログラムの充実・強化

1 体験型環境学習の推進

(1) オープンラボ、環境科学教室

良好な環境の保全、創造に資するため小学5年生～中学生を対象に、科学実験等の体験学習を通じて、身近な環境問題への関心や知識を深めてもらうことを目的に開催しています。

(2) 水辺の楽校、かわさき多摩川ウォーク

市民の身近で親しみのある多摩川に触れる機会や体験を通じて、多摩川の自然環境の豊かさや保全の重要性を理解してもらうことを目的に開催しています。

(3) 地球に美味しい「エコ・クッキング」

小学校PTAを対象に、買物から料理、片付けにいたるまでの一連の流れを通じて、身近な題材で、体験的に環境の大切さを考えることを目的に開催しています。

(4) その他

エコドライブ講習会、出前ごみスクールなどの体験型環境学習が実施されています。

2 環境に関する学習教材等の作成・配付

(1) 環境副読本

環境関係全般の副読本として、「わたしたちのくらしと環境 明るい未来に向かって」（小学4～6年生用）と「あしたをつかめ！Yes, We Can!」（中学1～3年生用）を作成・配付しました。また、2003年度には環境副読本を活用した授業の実践例をまとめた「環境副読本事例集」を作成・配付しました。

(2) 社会科副読本

廃棄物の収集・処理・リサイクルについての資料として「くらしとごみ」（小学3・4年生用）を作成・配付しました。

(3) その他環境学習等資料

市民向けに「空気のよごれ」、「川の生きもの」、「私たちのごみと環境」の小冊子等を作成しています。

・学校における環境教育の充実・強化

市立小学校 114 校中 114 校、市立中学校 51 校中 41 校が、「総合的な学習の時間」で学校・地域の特色を活かし、「環境学習」に取り組んでいます。

○主な内容は、

- ・水に関すること（河川、水源など）
- ・自然保護活動、森林に関すること（水資源、森林破壊など）
- ・地球規模の環境問題（地球の温暖化、砂漠化、酸性雨など）
- ・大気に関すること（大気汚染など）
- ・植物栽培、動物飼育、ビオトープなどに関すること等です。

○主な活動は、

- ・省エネ活動、資源収集・リサイクル活動、地域との関わりを持つ活動などの体験活動
- ・地域の人材活用、他地域の学校などとの交流、見学・調査活動
- ・ボランティア活動、表現活動（作品化、発表会など）、関係機関の協力や連携等
- ・かわさき地球温暖化対策推進協議会・市民部会の企画によるエコショッピング・クッキングの実施等です。

「総合的な学習の時間」での環境学習についてもその取組を進めるため、環境副読本（毎年）・環境副読本活用事例集（2003 年度）を配布し、副読本を活用した環境学習への取組を啓発するとともに、環境学習支援のため、人材派遣などの協力を行っています。

・幼児環境教育の推進

幼児環境教育は、人間形成の基礎を培う幼児期より、自然に触れ合い、自然の大きさ、美しさ等に直接触れる体験を通じて、自然に対する豊かな感性や、持続可能な社会を築く環境に配慮した生活習慣を身に付けること等の力を養います。2006 年度は新たな幼児教育プログラムの素案を作成しました。

・IT等を活用した情報交換・交流の場の整備

2003 年度から、市の環境教育・学習に関する総合的な窓口となるホームページを開設しています。HP アドレス <http://www.city.kawasaki.jp/30/30kantyo/home/gakusyuu/top.htm>

●環境教育・環境学習推進のための基盤整備

・地域環境リーダーや緑化推進リーダー等環境教育・環境学習や環境保全活動の核となる人材の計画的な育成

1 地域環境リーダー育成講座

地域や職場で環境学習や環境保全活動を率先して行うことのできる人材の育成を目的に実施しています。2006年度は30名が講座を修了しました。

2 花と緑のまちづくり講座（緑化推進リーダー育成講座）

市民による自主的な緑化活動や地域の緑化推進活動を率先して行うことのできる人材の育成を目的に実施しています。2006年度は30名が講座を修了しました。

3 里山ボランティア育成講座

里山の自然環境や管理手法を学び、里山ボランティアの人材を育成することを目的に実施しています。2006年度は20名が講座を修了しました。

・環境教育・環境学習、環境保全活動を総合的に推進する拠点づくり

1 川崎市立小学校における省エネ共和国

「省エネ共和国」は地球温暖化防止のために学校、商店街、家庭や地域など、身近な場で日常的な省エネルギー活動の取組みを進めるため（財）省エネルギーセンターが実施しています。川崎市では、1998年に市立新町小学校が市内ではじめて登録（共和国宣言）し、2006年までに川崎区の市立小中学校を中心に現在21校（全国で171校）が登録して、次のような活動を行っています。

緑化推進リーダー

緑の保全及び緑化の推進に関し、地域における市民の自主的な活動の指導的な役割を担う。市では、講習会の開催その他必要な支援を行う。

○省エネ共和国の主な活動

- ・省エネ共和国を校内外に表示
- ・「省エネナビ」を活用した省エネ活動
- ・各校独自の省エネ活動の推進
- ・家庭、地域への省エネ活動への発信や連携推進

2 省エネルギー教育モデル校

(財)省エネルギーセンターの募集に応じて、2001 年度に市立新町小学校が、2003 年度には市立升形中学校等がモデル校となり、それぞれ 3 年間の研究推進に当たってきました。2005 年度には、市立宮前小学校がモデル校になり、モデル校は市内小中学校で 10 校となりました。(全国で 671 校)

○主な活動

- ・「省エネナビ」を活用した省エネ活動
- ・各校独自の省エネ活動の推進
- ・家庭、地域への省エネ活動への発信や連携推進 等

3 環境教育・環境学習に関する学際的な調査研究部門の設置

今日の複雑・多様化した環境問題に対し、科学的な裏付けを持った行政施策を展開するため、環境総合研究所の整備に向けた検討を行っています。

この新しい研究所の整備に向けた検討の中で、現在行っている環境教育・環境学習の強化を図り、様々な環境教育・学習事業の推進を目指しています。

●環境保全に関する活動等を通じた環境教育・環境学習の促進

・川崎らしい歴史的文化的資源や自然資源の選定等による環境教育・環境学習の促進

- 1 生田緑地での自然観察会
- 2 かつて盛んであった川崎臨海部の海苔づくりについて「海苔つけ」体験を行っている学校があります。
 - ・地域の方の協力を得た「海苔つけ」体験—殿町小学校、大師小学校 他
 - ・川崎マリエンで行われる川崎の海の歴史保存会による体験学習の紹介
- 3 平瀬川、矢上川、多摩川等の河川における環境学習
 - ・市民団体との連携・協力による河川の自然観察・地域清掃活動等
 - ・河川の下流・中流に位置する小学校の交流を通じた体験学習
 - ・河川の環境調査、水質検査などを通じた環境学習
 - ・「水辺の楽校」への参加、広報など

・学校及び公共施設等への太陽光発電システム等の自然エネルギー利用施設の導入による利用者の意識啓発の推進

- 1 2006 年度は、橘中学校、井田小学校及び夢見ヶ崎動物公園に太陽光発電システムと発電電力量の表示パネルを設置しました。
- 2 市立学校の改築等にあわせて太陽光発電システムを導入し、あわせてソーラー街灯の設置を進めています。
 - ・太陽光発電システム設置校 1999 年度～2006 年度 10 校
 - ・ソーラー街灯設置校 7 校

太陽光発電

太陽光を電気に変換する光電素子を利用した発電方式